

幼稚園・保育園のわらい
 友だちとのかかわりが深まる中で、自分の思いや考えを發揮し、友だちに認められることを喜び
 カリキュラムNo.32...やさしい子ども...
 役割を担って、自分たちで遊びや生活を進めていくことを喜び
 カリキュラムNo.36...やさしい子ども...

ほくたち、わたしたちのげきを せいこうさせよう！ 10~12月
 ~友だちとかかわりながら、様々な方法で自分を表現する~ ゆもと幼稚園

☆ 視点に関わる背景 ☆

ゆうぎ会が近づき、クラス全員で劇を発表することになった。絵本や紙芝居を参考に1つ選び、配役やセリフ等を子どもたち同士で話し合いながら劇の練習を進め、完成させることとした。

☆ 経過 ☆

活動の流れ	園児の姿 (○)・環境や援助 (◎)
10月 第3週 ・劇にしてみたい物語を話し合う。 「ももたろう」「3びきのこぶた」「シンデレラ」「金のがちょう」「てぶくろ」「大きなかぶ」等	◎ゆうぎ会で発表する劇について、話し合うことを提案する。 ○前年度も発表した経験があるため、「楽しいお話がいいね」「男の子も女の子も出てくるお話がいいね」等、意見が出される。 ○「『金のがちょう』がいい」との声に賛成する子が多かったため、「金のがちょう」に決定する。 ◎ストーリーや登場人物等について確認できるよう、絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。 ○好きな役に分かれ、自分たちでセリフも考えながら劇を進める姿が見られる。
11月 第1週 ・役を交替しながら行う。 	○友だち同士、役を交替しながら繰り返し行っていたが、いつも同じ役をする子に対し、「いつも『きこり』でするいよ」「ほくも今度は『きこり』してみたい」等、数名の子が言い始める。 ◎別の役もしてみたい子の気持ちを認め、交替しながら劇を進めるよう声をかける。また、他の子どもたちにももう一度話し合い、いろいろな役を経験できるよう、提案する。
11月 第3週 ・配役が決定し、セリフを皆で考えながら、劇の練習を行う。 ・音楽や小道具を使い、劇が完成する。	○何度も役を交替し合いながら劇を続けてきた結果、「Aくんはきこりがいいと思うよ」「Bくんはこびとね」「Cちゃんはお姉さんになったら？」等話し合いながら、役を決める。 ○「きこりは『おの』がほしいね」「こびとは『さんかく帽子』」「『金のがちょう』も作りたい」等、劇に必要な物を話し合う。 ◎子どもたちと一緒に小道具や衣装を作り、更に場面に合う効果音や音楽を準備する。 ○音楽等を使うことで、よりイメージが広がり、劇を楽しむ姿が見られる。

☆ 考察 ☆

この時期の幼児は、様々な活動を通し、自分の思いや考えを表現できるようになってきている。また、相手の言葉に耳を傾け、イメージを出し合って遊ぶ楽しさに気付いてきている。そのため、いろいろな意見を出し合って劇を進めることができた。

しかし、幼児同士だけでは話し合いもうまくいかない事が多いため、保育者の援助が必要である。保育者は、話し合いの場を設け、一人一人の意見を取り入れ、認め合いながら、時には方向づけをしていかなければならない。

劇の練習を繰り返すうちに、普段はあまり自分の考えを表現するのが苦手な子も、友だちの話を聞きながら、徐々に自分の思っていることを伝えることができるようになってきた。ゆうぎ会当日には、自信を持って発表する姿が見られた。